

井手挟 3号墳

井手挟3号墳は、米子市淀江町宇田川にあった古墳時代中期の長さ29mの帆立貝式の古墳です。調査時には墳丘はすでに削られて埋葬施設は残っていませんでしたが、古墳の周溝から数多くの形象埴輪が発見され注目されました。

埴輪は、円筒埴輪と形象の楯持人、鹿、水鳥、鶏、家などです。楯持人は冠を被り顔に入れ墨をして顎髭を生やした人物が、鋸歯文で飾られた楯を持った姿です。ほかに鬘を結った楯持人もありました。動物の鹿、水鳥は大小があり親子の姿と推察されます。

これらの埴輪は、墓の守りやお祭りを表しているものと考えられます。

現在、古墳はありませんが、埴輪は上淀白鳳の丘展示館に展示してあります。



井手挟 3号墳



水鳥埴輪



楯持人埴輪



鹿埴輪